

法政大学 GIS (グローバル教養学部) とは

- ◇ 学部長挨拶
- ◇ GIS Mission 2023
- ◇ 卒業後の主な進路先1 (日系グローバル企業・外資系企業)
- ◇ 卒業後の主な進路策2 (海外大学院)
- ◇ 入学試験
- ◇ 自己推薦入学試験 (総合型選抜)
- ◇ 12月入試で入学した学生の英語力の伸び (基準別) 〈イメージ〉
- ◇ 12月入試で入学した学生の履修科目 (基準別)
- ◇ 卒業生 (卒業後のファーストキャリア) パンフレットからの抜粋



法政大学
GIS(グローバル教養学部)
学部長 福岡賢昌

私たち法政大学グローバル教養学部(通称GIS)は2008年4月に設立されました。2023年は16年目になります。私たちは設立以降、グローバル基準を常に意識してきました。例えばGISの講義は100%英語で行われていますが、これは英語圏だけでなくアジアや欧州の高等教育が英語で行われていることに端を発しています。また、リベラルアーツ教育を提供している理由は、欧米の学士課程では、人格形成、幅広い知識教養と基礎的な専門分野の習得、また、実践的なスキルの習得に主眼が置かれているからです(GISではゼミ活動で専門分野を深めます)。

日本はかつて世界で大きな存在感があり輝きを放っていました。1979年には『ジャパン アズ ナンバーワン: アメリカへの教訓』が出版され、その10年後の1989年には三菱地所がロックフェラーセンターを買収したことはその証左でしょう。しかし、それから30年経ち、日本はかつての存在感と輝きを失ってしまいました。理由の一つは、日本の競争相手の変化があげられます。つまり、日本にとってグローバル競争と言えば欧米先進国との競争でしたが、現在は中国、インド、アフリカ諸国等が台頭したことにより、5大陸で競争せざるをえなくなったわけです。話を単純化すればグローバル市場においてプレイヤーが増えたことで、競争が激化し相対的に存在感が失われたと言えます。

プレイヤーが増えれば、当然、価値観も多様化するため、様々な場面における合意形成プロセスは複雑化し困難になります。地球規模で発生している諸問題を解決するプロセスもその一つです。いかに自国や企業等の利益を考えながら折り合いをつけることができるか、そして、最終的にいかにグローバル社会の発展に貢献することができるか。こうした課題を多角的な視点から捉え、解決できる能力を持った人材が今、求められています。

今後、社会は私たちが予想する以上に、国境を越えてヒト、モノ、カネ、情報が行き交い、労働市場もよりグローバル化されていくことでしょう。そして、近年話題のDXやAIがさらにそれを加速化させることは間違いありません。つまり、日本だけでしか通用しないものはますます淘汰されていくということです。例えば、学位の考え方もそうです。グローバル市場では修士や博士を持っているビジネスパーソンが多くなりました。もはや学士は最終学歴ではありません。これからの若者はこのように激変するグローバル社会を生きていくのです。

私たちがこれまで提供してきた「英語によるリベラルアーツ教育」は今の時代、その重要度が増しています。私たちには設立以来培ってきた15年間の経験とノウハウがあります。それらを活かしながら、これからも「国内外問わず、英語を活用し、グローバル基準の知識・教養、実践的スキルとマインドをもって、堂々と世界の人々と渡り合うことができる魅力あるリーダーとして、グローバル社会の発展に貢献できる人材」を育てていきたいと思えます。

GIS Mission 2023

私たちは、国内外問わず、世界人口約80億人の人々と堂々と英語で渡り合うことが出来るリーダー、グローバル社会の更なる発展に貢献することが出来る人材または人間を育てます。

グローバル社会で活躍できる人間を育てるためには、学生のそれぞれの個性を活かしつつ、学生時代に「高い英語力」「文化的知性」「幅広い教養」「高度な専門知識」「実践的スキル」「人間力」を育む必要があると考えています。



- ・高い英語力・・・最低でもTOEFL100点、IELTS7.0～7.5程度の英語力
- ・幅広い知識教養・・・文学、歴史、哲学、心理学、国際関係学、経営学等に関する幅広い基礎的な知識教養
- ・文化的知性・・・複数の文化の中で自分と異なる文化を持つ人たちと一緒に仕事をする能力
- ・実践的スキル・・・問題発見力、批判的思考力、(英語による)ディスカッション・プレゼンテーション能力、チームワーク、共感性
- ・高度な専門知識・・・基礎的な専門知識(学士課程)、高度な学術的専門知識(修士/博士課程)
(グローバル社会では、修士か博士が最終学歴になりつつあります。その為、将来、修士や博士の取得を目指すGIS生が増えています。)
- ・人間力・・・文化を超えて様々な人たちと交流したりチーム等を率いることができる人間的な魅力

そこで、私たちは100%英語による世界基準のリベラルアーツ教育カリキュラムと独自の付加価値プログラムを提供します。

100%英語による世界基準のリベラルアーツ教育カリキュラム		付加価値プログラム	
<p>〈カリキュラムの特徴〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に人文、社会科学、ビジネス分野をカバー ・科目を100～400レベルに分類 ・約30の学術分野、200以上の科目を提供 ・3、4年次のゼミ活動を通じた基礎的な学術的専門性の習得と修士課程に繋がる高度な専門性の素地を形成。 ・徹底した英語力強化プログラム 	<p>〈授業の特徴〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全授業英語(ディスカッション、プレゼンテーション、課題等を含む) ・少人数、双方向、グループワーク(チームプロジェクト)、プレゼンテーション、ディスカッション等のアクティブラーニングの実施 ・教員と学生の出身地や長期滞在先は世界約50の国と地域に及ぶ等、多様性のある環境 ・外部講師を招いて行われることもある実践的な講義や場の提供 	<p>〈外部機関連携プログラム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学の研究者や国際機関職員によるトーク、企業とのワークショップ等 <p>〈2019年度〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BMW社とのワークショップ <p>〈2022年度〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Stanford大学教授による講演 ・UNICEF日本代表者による講演 ・研究者による講演4回実施 ・フルブライト派遣講師による特別授業等 	<p>〈大学・学部内プログラム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外大学院出願サポートプログラム(GSAS) ・産業界等(日系グローバル企業/外資系企業/起業家等)との連携組織(GGLI) ・企業就職内定者による学部内キャリアフォーラム ・学部独自の留学プログラム(OAS) ・法政大学派遣留学プログラム ・法政大学データサイエンスプログラム

学生の特徴

- ・義務教育時の海外就学者(帰国生)
- ・国内インターナショナルスクール出身者
- ・高校時の単身留学経験者
- ・留学未経験者
- ・留学生
- ・編入生

*様々な地域・国で教育を受けてきた学生が混ざり合う多様性のある環境です。

卒業後の進路(2022年度の主な実績) (注1)

<ul style="list-style-type: none"> 〈外資系企業〉 ・ゴールドマンサックス ・テキサスインスツルメンツ ・IBM 等 	<ul style="list-style-type: none"> 〈海外大学院合格先〉 ・Stanford (米国) ・Bath (英国) ・Lancaster (英国) 等
<ul style="list-style-type: none"> 〈日系グローバル企業〉 ・ソニー株式会社 ・本田技研工業株式会社 ・KDDI 等 	<p>*近年では在学中に起業する者や将来的に起業を検討する学生も増えています。</p>

教授陣の紹介

- ・博士(PhD)/専門分野で卓越した実績
- ・海外での研究・講義・勤務経験あり
- ・外国籍を持った教員率: 53%
- ・専任教員の専門分野(経営学、観光学、心理学、言語学、教育学、国際関係学、文学、メディア学、ジェンダー学、情報学、哲学)

*様々なバックグラウンド・専門分野を持つ多彩な教授陣が白熱講義を展開します。

(注1)
あくまでもファーストキャリアであり、日系グローバル企業や外資系企業での就業経験を経て海外大学院に進学する者や起業する者がある等、卒業生のキャリア形成プロセスは様々です。

卒業後の主な進路先 1

日系グローバル企業・外資系企業等への就職実績

◇ 外資系企業

Accenture Japan [Ireland]
Air Canada [Canada]
Amazon Japan [USA]
Amazon Web Services Japan [USA]
Apple Japan [USA]
Beacon Communications [France]
Booking.com Japan [Netherlands]
Bvlgari Japan [Italy]
Cornes & Company Limited [Hong Kong]
Costco Wholesale Japan [USA]
Deloitte Touche Tohmatsu LLC [USA]
Deloitte Tohmatsu Financial Advisory LLC [USA]
Dell Technologies [USA]
EMC Japan [USA]
Emirates Airline [Arab]
Ernst & Young Advisory [UK]
ESRI Japan [USA]
Federal Express Japan [USA]
Goldman Sachs [USA]
HSBC Securities (Japan) Limited [UK]
IBM[USA]
Intel [USA]
Johnson & Johnson [USA]
Philip Morris Japan [USA]
PricewaterhouseCoopers [UK]
Qatar Airways [Qatar]
Red Bull Japan [Austria]
Richemont Japan Limited [Switzerland]
salesforce.com [USA]
Starbucks Coffee Japan, Ltd. [USA]
Singapore Airlines [Singapore]
State Street Trust and Banking [USA]
Tata Consultancy Services Japan [India]
Texas Instruments Inc [USA]

◇ 公共・教育機関等

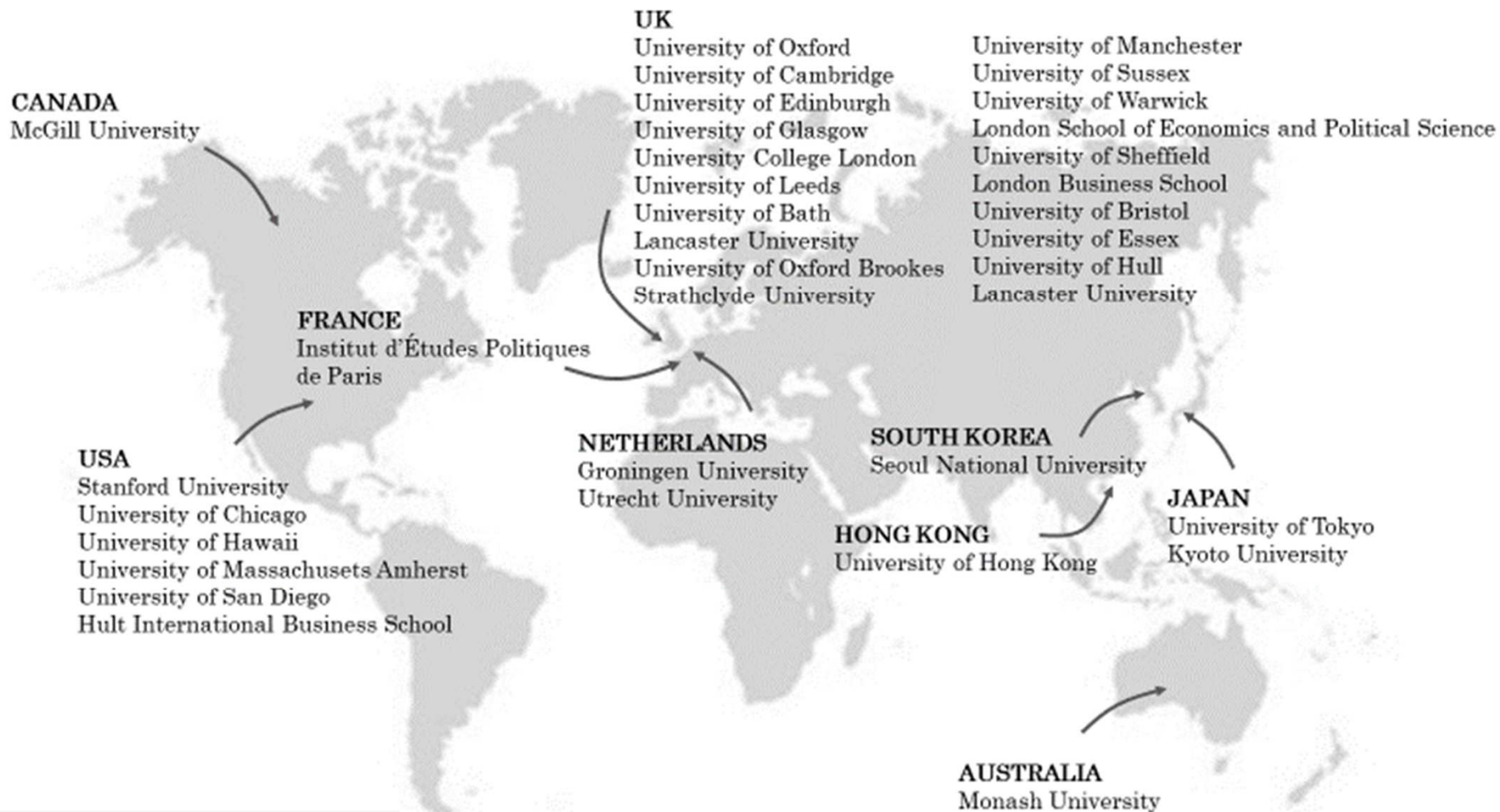
An Embassy in Japan (在日大使館)
Japan Self-Defence Forces (防衛省)
Tokyo Metropolitan Board of Education (東京都教育委員会)
Tokyo Metropolitan High Schools (東京都立高校教員)
Private Secondary Schools (私立中学校・高等学校)
University of Yamanashi (山梨大学教員)
Thai Japanese Association School (バンコク日本人学校)

◇ グローバル企業

Advantest (アドバンテテスト)
Ajinomoto AGF, Inc. (味の素AGF株式会社)
ANA Group (ANA グループ)
BANDAI CO., LTD. (株式会社バンダイ)
Cyber Agent (サイバーエージェント)
Funai Consulting Incorporated (船井総合研究所)
Hakuhodo (博報堂)
Honda Motor Co., Ltd. (本多技研工業)
IHG ANA Hotels Group Japan (IHG・ANA・ホテルズグループジャパン)
JAL Group (JAL グループ)
JGC (日揮)
JTB Group (JTB グループ)
JX Nippon Oil & Gas Exploration (JX 石油開発)
Kewpie Corporation (キューピー株式会社)
KDDI
Kyodo NEWS (共同通信社)
Marubeni (丸紅)
Mizuho Bank (株式会社みずほ銀行)
Mizuho Financial Group (みずほフィナンシャルグループ)
Mitsubishi Motors (三菱自動車工業)
Mitsubishi UFJ Morgan Stanley Securities (三菱JPモルガン・スタンレー証券)
MUFJ Bank (株式会社三菱UFJ銀行)
NHK (日本放送協会)
Nihon Unisys (日本ユニシス)
Nippon Steel & Sumitomo Metal (新日鐵住金)
Nippon Shokubai (日本触媒)
Nissan Motor Co., Ltd. (日産自動車株式会社)
Nomura Securities (野村證券)
NTT DATA (NTT データ)
NTT Communications (NTTコミュニケーションズ)
PERSOL CAREER CO., LTD. (パーソルキャリア株式会社)
Rakuten (楽天)
Rinnai (リンナイ)
Sapporo Breweries (サッポロビール)
Seiko Epson (セイコーエプソン)
Shimazu Corporation (株式会社島津製作所)
Shiseido (資生堂)
SMBC Nikko Securities (SMBC 日興証券)
Softbank Group (ソフトバンクグループ)
Sony Corporation (ソニー株式会社)
TOTO
Yamaha Motor Co., Ltd. (ヤマハ発動機株式会社)

卒業後の主な進路先 2

(海外)大学院への合格実績



* 複数年、就業業経験後に海外大学院に進学する者が増えていることも近年の傾向です。

入学試験

総合型選抜

2024年度入試より入試の定員を増やしました ↑

自己推薦入学試験

対象:4月入学者

自己推薦入学試験

対象:9月入学者

2024年度入試より新しい春入学入試が開始されます

★大きな変更点

- ・定員が28名から40名に増えました。
- ・A基準において、英語外部試験(TOEFL、IELTS、英検)のスコア・級を問わず(提出は必要)出願可能になりました。
- ・筆記試験がなくなりました。
- ・志望理由書の記述内容が変更されました。

指定校選抜

一般選抜

A入試

対象:4月入学者

英語外部利用入試

対象:4月入学者

・国語+数学/社会+英語外部試験のスコア提出で出願可能
(スコアに応じて、英語の点数を175点、185点、200点満点に換算します)

・国語/数学+英語外部試験のスコア提出で出願可能
(スコアに応じて、英語の点数を130点、140点、150点満点に換算します)

その他

付属校からの入学、法政大学の他学部、他大学からの転編入試験あり

自己推薦入学試験(総合型選抜) 定員:40名

- 新しい自己推薦入学試験が2023年から開始されます。主に基礎的な学力、英語力、リーダーとしてグローバル社会の更なる発展に貢献できる意欲と資質があるかどうかについて確認する試験です。
- 新しい自己推薦入学試験では、受験生のこれまで受けてきた教育とそこから得た経験や学力に応じて、**S基準、A基準の2つの基準**を用意しました。**基準に優劣はありません**。自身の強みを活かした基準を選んで受験して下さい。
- バックグラウンドが異なる受験生が入学後に交われば**多様性ある学修環境**が創出されます。グローバル社会で活躍するために必要な「高い英語力」「文化的知性」「幅広い教養」「高度な専門知識」「実践的スキル」「人間力」を身に付けるには、こうした多様性ある学修環境もまた必要不可欠であると私たちは考えています。

新しい自己推薦入学試験(総合型選抜)における2つの基準 (公式な情報は、必ず入試要項で確認して下さい)

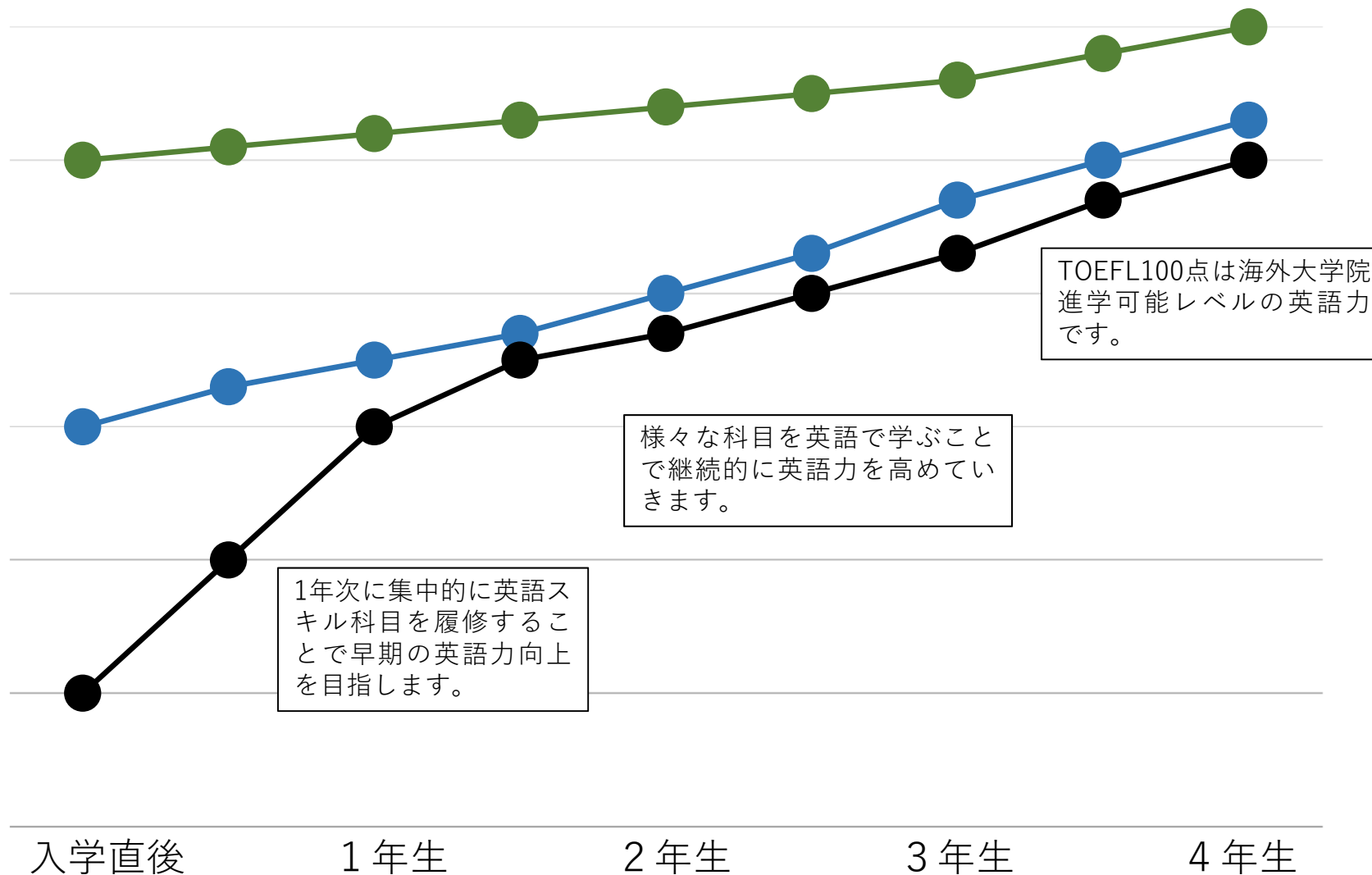
	S基準	A基準
定員	7名	33名
対象者	日本国内だけでなく日本国外の教育制度出身者で高い学力と英語力を有し、日本について理解があり、将来、海外大学院への進学や国際機関等で働くことで(日系グローバル企業や外資系企業等も選択肢)、日本と出身国及び教育を受けた国との間で架け橋になることを志す者が対象です。	高い学力を有する日本国内の学校に在籍する生徒であって、将来、日本語と英語の両言語を使って、日系グローバル企業や外資系企業等でグローバルに活躍することを志す者が対象です。英語外部試験の最低スコアを撤廃し、現在の英語力だけでなく、入学後の英語力向上の可能性(基礎学力および学修意欲)を含め評価を行います。
出願資格	出願資格:以下の(1)(2)(3)及び英語能力による出願要件である(4)を満たすこと。 (1)GISで学ぶことを強く希望する者 (2)以下のいずれかに該当する者 ①日本の教育制度により、高等学校または中等教育学校を卒業、もしくは入学時までに卒業見込の者 ②日本の教育制度により、通常の過程による12年の学校教育を修了、もしくは入学時までに修了見込の者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者* もしくは入学時までに認められる見込の者 *日本国外の学校教育における12年の過程を修了した者や国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI、NEASC)の設定を受けた学校で12年間の過程を修了した者等	
	(3)上記の出願資格(1)と(2)に加え、次ページの(a)~(g)のいずれかの成績評価証明書・スコアを提出すること。	(3)上記の出願資格(1)と(2)に加え、日本国外の教育制度による学校を修了、もしくは修了見込の者は次ページの(a)~(g)のいずれかの成績評価証明書・スコアを提出すること。ただしWASC / CIS / ACSI / NEASC認定校の修了(見込)者の提出は不要。
英語能力による出願要件	(4)以下のa, b, cのいずれかを満たすこと a. TOEFL iBT 90点以上 b. IELTS (Academic Module) band 7.0以上 c. Language Aに英語を選択し、IB Diplomaを取得または取得見込み TOEFLはTest Date スコアのみを出願スコアとして活用します(My Bestスコアは不可)。	(4)これまで受験した英語民間試験の結果を提出すること(ただし、スコア・級は問わない)。英語民間試験は英検、TOEFL、IELTSのいずれかとする。
出願期間	2023年9月7日~9月13日	2023年10月10日~10月20日
提出書類	①調査書 ②Personal Statement (a.リーダーシップ経験または探求経験等を英文で500words) ③推薦状 (推薦状の項目) a. 推薦者の名前 b. 所属 c. 受験生との関係性 d. 5受験生の学力・知的能力(5段階評価) e. 受験生の向上心(5段階評価) f. 受験生の創造力(5段階評価) g. 受験生の協調性(5段階評価) h. 受験生の情緒面での安定性(5段階評価) i. 特記事項	
オンライン面接日(対象者)	2023年10月8日	2023年12月3日
合否発表日	2023年11月1日	2023年12月12日

日本国外の教育制度による学校を修了、もしくは修了見込の者受験するために 必要な出願資格と提出書類

	出願資格	提出書類
a	国際バカロレア (IB) プログラム (日本語DPを含む) を履修し、Diplomaを取得、もしくは取得見込みである。	直送の場合：Transcript of Grades 同封の場合「Transcript of Grades と Diploma 最終試験6科目 国際バカロレア (IB Diploma) 取得見込みについては、本学部 所定の書式を使用して下さい。
b	GCE Advanced Level 3科目、またはGCE Advanced Level 2科目とGCE Advanced Subsidiary Level 2科目の合計4科目を受講している (見込みを含む)	GCEの成績評価証明書
c	NCEA (National Certificate of Education Achievement) Level 3 を含む、現地大学への入学要件 (UE: University Entrance) を満たしている (見込みを含む)	NCEA Level 3 を含む成績評価証明書 (Record of Achievement) NCEA Level 3及びUE: University Entrance の結果が出願期間までに発表されない場合は、出身高校に成績評価見込証明書の作成を依頼して下さい (書式は任意)。
d	バカロレア (Baccalauréat) を取得している (見込みを含む)	バカロレア (Baccalauréat) の成績評価証明書
e	アビトゥア (Abitur) を取得している (見込みを含む)	アビトゥア (Abitur) の成績評価証明書
f	ACTを受験している (Writingを含む)	ACTスコア直送コード0607 * Superscoreは不可
g	SATを受験している* (SAT Essay不要)	SATスコア直送コード3686 * Superscoreは不可

*A基準に出願する国際的な評価団体 (WASC、CIS、ACSI、NEASC) の設定を受けた学校で12年間の過程を修了した者のSATスコアの提出は不要。

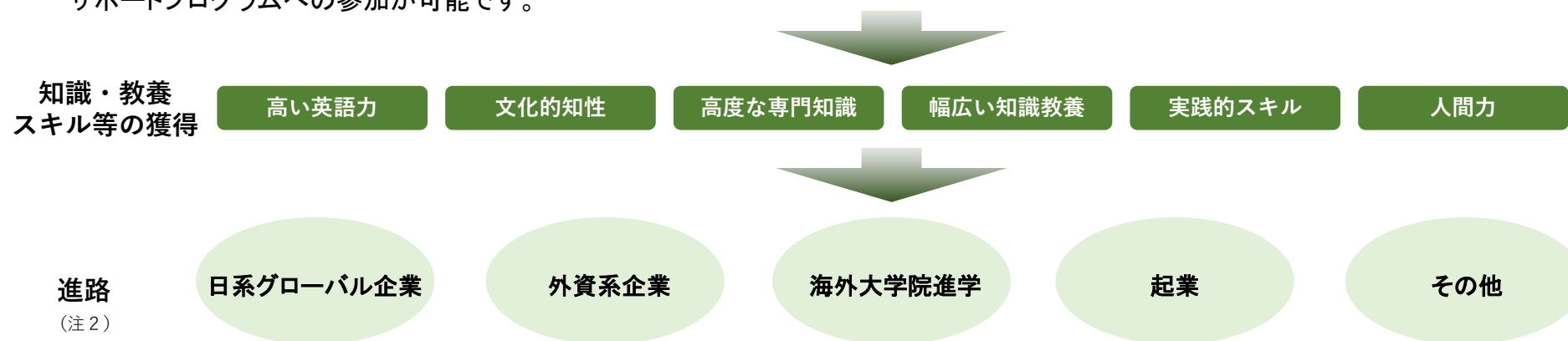
入学時点の英語力の違いによる英語力の伸び(基準別) イメージ
TOEFL iBT (120点満点)



学生の履修科目(イメージ)

	春/秋	TOEFL90以上	TOEFL80程度	TOEFL80未満
1年次	春	<u>英語力向上スキル科目 (少)</u> ・ 上級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目	<u>英語力向上スキル科目 (中)</u> ・ 初級/中級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目	<u>英語力向上スキル科目 (多)</u> ・ 初級/中級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目
	秋	・ 上級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目	・ 中級・上級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目	・ 中級・上級アカデミック英語科目 ・ 初級レベル科目
2年次	春 秋	・ 2年次は中級レベル科目、3年次、4年次は上級レベル科目の受講・より専門性を深めるためのゼミ活動への参加 ・ GIS提供科目以外に、他学部の公開科目やグローバル教育センターが主催する留学生を対象としたESOP科目の受講 ・ 学部独自の留学制度 (OAS) や大学の派遣留学制度への参加 等		
3年次	春 秋			
4年次	春 秋			
	卒業論文の執筆・成果発表 等			

その他、希望する進路に応じて、日系グローバル企業、外資系企業勤務者、起業家等を招いた講演、ワークショップ等や大学院進学サポートプログラムへの参加が可能です。



(注2)あくまでもファーストキャリアであり、日系グローバル企業や外資系企業での就業経験を経て海外大学院に進学する者や起業する者がある等、卒業生のキャリア形成プロセスは様々です。

卒業生(卒業後のファーストキャリア)過去のGISパンフレットより抜粋

日系グローバル企業



2014年3月卒業
ソフトバンク



2016年3月卒業
全日本空輸



2016年3月卒業
日本製鉄



2016年3月卒業
共同通信



2017年3月卒業
セイコー
エブソン



2017年3月卒業
JGC



2019年3月卒業
全日本空輸



2021年3月卒業
丸紅

外資系企業



2014年3月卒業
EYアドバイザー



2015年3月卒業
HSBC



2017年3月卒業
PWC
コンサルティング



2019年9月卒業
アクセンチュア



2018年3月卒業
AIG損害保険



2022年3月卒業
Bloomberg

海外大学院進学



2014年3月卒業
ウォーリック大学
大学院修士課程



2014年3月卒業
ユトレヒト大学
大学院修士課程



2016年3月卒業
エセックス大学
大学院修士課程



2017年3月卒業
ロンドンスクール
オブエコノミクス
修士課程



2019年3月卒業
マンチェスター
大学大学院
修士課程

公共機関等



2017年3月卒業
私立中高教員



2015年3月卒業
私立中高教員



2014年3月卒業
大使館